



森地区の語る会の様子

問 森地区には、秋葉街道や古着の町として栄えた町並みや蔵があるが、近年は傷みが進んだ建物も目立つ。町並み保全や利活用についての具体的な政策を教えてください。

答 森町にはかつての秋葉街道沿いに町屋が並び、中庭を隔てて、奥に蔵が配置されるなど京都の町屋と同じような造りになっています。



岩瀬進哉さん



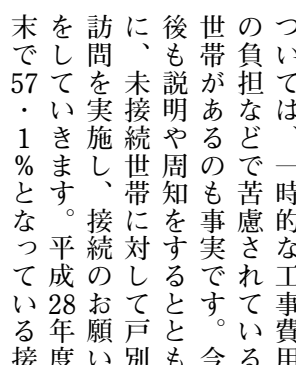
石橋修二さん

問 森地区で公共下水道事業が行われているが、各家庭の工事費負担が高額となるため、下水道への接続をあきらめている人が多いと聞く。現時点で接続率56%、10

答 森町にはかつての秋葉街道沿いに町屋が並び、中庭を隔てて、奥に蔵が配置されるなど京都の町屋と同じような造りになっています。

問 森地区で公共下水道事業が行われているが、各家庭の工事費負担が高額となるため、下水道への接続をあきらめている人が多いと聞く。現時点で接続率56%、10

答 森町にはかつての秋葉街道沿いに町屋が並び、中庭を隔てて、奥に蔵が配置されるなど京都の町屋と同じような造りになっています。



森地区の語る会の様子

問 森地区で公共下水道事業が行われているが、各家庭の工事費負担が高額となるため、下水道への接続をあきらめている人が多いと聞く。現時点で接続率56%、10

答 森町にはかつての秋葉街道沿いに町屋が並び、中庭を隔てて、奥に蔵が配置されるなど京都の町屋と同じような造りになっています。

問 森地区で公共下水道事業が行われているが、各家庭の工事費負担が高額となるため、下水道への接続をあきらめている人が多いと聞く。現時点で接続率56%、10

答 森町にはかつての秋葉街道沿いに町屋が並び、中庭を隔てて、奥に蔵が配置されるなど京都の町屋と同じような造りになっています。



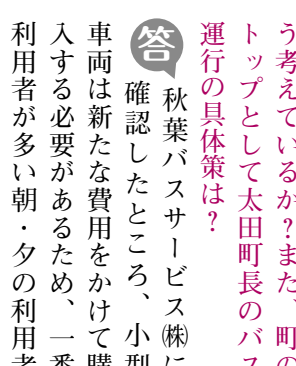
森下潤一さん

問 森地区で公共下水道事業が行われているが、各家庭の工事費負担が高額となるため、下水道への接続をあきらめている人が多いと聞く。現時点で接続率56%、10

答 森町にはかつての秋葉街道沿いに町屋が並び、中庭を隔てて、奥に蔵が配置されるなど京都の町屋と同じような造りになっています。

問 森地区で公共下水道事業が行われているが、各家庭の工事費負担が高額となるため、下水道への接続をあきらめている人が多いと聞く。現時点で接続率56%、10

答 森町にはかつての秋葉街道沿いに町屋が並び、中庭を隔てて、奥に蔵が配置されるなど京都の町屋と同じような造りになっています。



秋葉バスサービステキニ

問 秋葉バスの車両小型化と町中運行についてどう考えているか？また、町のトップとして太田町長のバス運行の具体策は？

答 秋葉バスサービステキニ確認したところ、小型車両は新たな費用をかけて購入する必要があるため、一番利用者が多い朝・夕の利用者

問 秋葉バスの車両小型化と町中運行についてどう考えているか？また、町のトップとして太田町長のバス運行の具体策は？

答 秋葉バスサービステキニ確認したところ、小型車両は新たな費用をかけて購入する必要があるため、一番利用者が多い朝・夕の利用者



町民の皆さんの意見・提案に対して、ていねいに答える太田町長

住民意見を、町政や総合計画推進に反映

各地区で活発な意見交換が行われた「町長と語る会」。述べ425人の町民が参加し、36人の皆さんから88件に及ぶ貴重な意見をいただきました。また、会場内に設置した「町政への意見箱」にも、28人の皆さんから46件に及ぶご意見・ご提案をお寄せいただきました。

町では、いただいたご意見を十分に検討するとともに、今後の町政運営の参考とさせていただきます。

町長と語る会 2017 次世代につなぐまちづくり(後半)

9月20日開催
森町文化会館
参加者102人

発表者① 山田茂子さん(城下下保健・医療・福祉)

問 城下地区では商店が減少し、徒歩や自転車しか交通手段を持たない人は不便を感じている。少しでもお役に立てればと、私が小さなお店を始めたところ、地域の皆さんにとっても喜んでいただけた。現在の状況をどう考えるか？

答 昨年度の高齢者実態調査から、町内の65歳以上の約3割の人が買い物弱者及びその予備軍と推計されており、支援策としては、宅配や移動販売、交通手段の確保などが考えられます。現在、宅配については、一部のコンビニや食料宅配業者などが運営するほか、移動販売を町内の複数の事業者が取り組んでいます。町では、こうした事業者の取り組みや地域の実態把握に努め、国や県の補助も検

問 昨年度の高齢者実態調査から、町内の65歳以上の約3割の人が買い物弱者及びその予備軍と推計されており、支援策としては、宅配や移動販売、交通手段の確保などが考えられます。現在、宅配については、一部のコンビニや食料宅配業者などが運営するほか、移動販売を町内の複数の事業者が取り組んでいます。町では、こうした事業者の取り組みや地域の実態把握に努め、国や県の補助も検

答 昨年度の高齢者実態調査から、町内の65歳以上の約3割の人が買い物弱者及びその予備軍と推計されており、支援策としては、宅配や移動販売、交通手段の確保などが考えられます。現在、宅配については、一部のコンビニや食料宅配業者などが運営するほか、移動販売を町内の複数の事業者が取り組んでいます。町では、こうした事業者の取り組みや地域の実態把握に努め、国や県の補助も検

問 昨年度の高齢者実態調査から、町内の65歳以上の約3割の人が買い物弱者及びその予備軍と推計されており、支援策としては、宅配や移動販売、交通手段の確保などが考えられます。現在、宅配については、一部のコンビニや食料宅配業者などが運営するほか、移動販売を町内の複数の事業者が取り組んでいます。町では、こうした事業者の取り組みや地域の実態把握に努め、国や県の補助も検

答 昨年度の高齢者実態調査から、町内の65歳以上の約3割の人が買い物弱者及びその予備軍と推計されており、支援策としては、宅配や移動販売、交通手段の確保などが考えられます。現在、宅配については、一部のコンビニや食料宅配業者などが運営するほか、移動販売を町内の複数の事業者が取り組んでいます。町では、こうした事業者の取り組みや地域の実態把握に努め、国や県の補助も検



山田茂子さん

問 城下地区では商店が減少し、徒歩や自転車しか交通手段を持たない人は不便を感じている。少しでもお役に立てればと、私が小さなお店を始めたところ、地域の皆さんにとっても喜んでいただけた。現在の状況をどう考えるか？

答 昨年度の高齢者実態調査から、町内の65歳以上の約3割の人が買い物弱者及びその予備軍と推計されており、支援策としては、宅配や移動販売、交通手段の確保などが考えられます。現在、宅配については、一部のコンビニや食料宅配業者などが運営するほか、移動販売を町内の複数の事業者が取り組んでいます。町では、こうした事業者の取り組みや地域の実態把握に努め、国や県の補助も検

問 昨年度の高齢者実態調査から、町内の65歳以上の約3割の人が買い物弱者及びその予備軍と推計されており、支援策としては、宅配や移動販売、交通手段の確保などが考えられます。現在、宅配については、一部のコンビニや食料宅配業者などが運営するほか、移動販売を町内の複数の事業者が取り組んでいます。町では、こうした事業者の取り組みや地域の実態把握に努め、国や県の補助も検

答 昨年度の高齢者実態調査から、町内の65歳以上の約3割の人が買い物弱者及びその予備軍と推計されており、支援策としては、宅配や移動販売、交通手段の確保などが考えられます。現在、宅配については、一部のコンビニや食料宅配業者などが運営するほか、移動販売を町内の複数の事業者が取り組んでいます。町では、こうした事業者の取り組みや地域の実態把握に努め、国や県の補助も検

問 昨年度の高齢者実態調査から、町内の65歳以上の約3割の人が買い物弱者及びその予備軍と推計されており、支援策としては、宅配や移動販売、交通手段の確保などが考えられます。現在、宅配については、一部のコンビニや食料宅配業者などが運営するほか、移動販売を町内の複数の事業者が取り組んでいます。町では、こうした事業者の取り組みや地域の実態把握に努め、国や県の補助も検

答 昨年度の高齢者実態調査から、町内の65歳以上の約3割の人が買い物弱者及びその予備軍と推計されており、支援策としては、宅配や移動販売、交通手段の確保などが考えられます。現在、宅配については、一部のコンビニや食料宅配業者などが運営するほか、移動販売を町内の複数の事業者が取り組んでいます。町では、こうした事業者の取り組みや地域の実態把握に努め、国や県の補助も検

先月号に引き続き、9月下旬に開催した3会場(森・園田・飯田地区)での概要を紹介します。

問い合わせ先 役場総務課広報統計係 ☎85-6301

茶の市場が減少していることが一因といわれています。

一方、海外市場では健康志向の高まりなどにより緑茶の輸出が増加し、県が主導する静岡県茶輸出拡大協議会で輸出体制の強化や海外展開の支援等が行われています。

この海外輸出をスムーズに進めるためには、ISOやHACCPなど世界基準の品質管理や食品の安全を高める国際規格認証を取得することが必要です。お茶の海外輸出や国際認証取得の支援につきましては、平成26年に浜松市に日本貿易振興機構(ジェトロ)が開設されましたので、このジェトロや県などと連携し、町内の茶商さんとも協議を重ねながら、町としても必要な支援を検討していきたいと思っております。

問 お茶離れや茶価の低迷により、我々茶業者も、昔ながらのお茶屋さんでは商売が成り立たなくなっており、安心が徹底された工場でのISOやHACCP(ハサップ)等の認証取得が求められている。認証取得や、海外進出等のサポートを県内の産地に先駆けてやってほしい

答 国内における茶価の低迷は、ペットボトル茶の消費拡大などに伴い、リーフ



安井健一さん



膝を交えた意見交換のようす

2 kmで、道路幅員は両側の歩道を含めて14・5 mの計画となります。本事業の実現により、地域の活性化はもとより、通学路の安全確保、小菰川の付け替えによる河川の流下能力向上、生活道路の利便性向上など様々な課題の解決が図られるのではないかと期待をしています。

現在は、袋井土木事務所で詳細設計を進めている段階です。農業用排水路の移設が必要箇所もありますので、今年中には県と町により、地元説明会等を開催させていただき、ご意見、ご要望等を丁寧にお聞きした中で、地元の皆



佐々木隆さん

答 生活基盤整備に関する町内会からの要望は、建設課の所管だけで昨年度

問 町内の幹線道路は整備されているが、生活道路に入ると、道路の凸凹や陥没、舗装の劣化など手付かずの箇所がかなりある。今後は、身近な生活道路を整備する段階にきているのでは？厳しい財政状況は理解するが、毎年、町内会で要望書を出しても進まない現状がある。国・県と連携しながら財源確保に努め、優先的に事業を進めてほしい。

答 生活基盤整備に関する町内会からの要望は、建設課の所管だけで昨年度

様のコンセンサスを十分とりながら進めてまいります。用地交渉等、実際に現場に入る時期については、土木事務所によると、早くて平成31年度位からになるのではないかと聞いております。町では引き続き、県に対して本事業の早期完成に向け、強く働きかけをしてまいります。

発表者④ 佐々木隆さん(谷中)
テーマ 安心・安全

問 新東名高速道路の遠州森町PAは、産業・観光振興をはじめ、遠州の小京都をキーワードにした文化交流、地域活性化など、森町の今後を形成する優良な「地域資源」である。このPAを活かした、森町の「希望」あるまちづくり構想とは？

答 生活基盤整備に関する町内会からの要望は、建設課の所管だけで昨年度

は496件あり、何らかの対応ができた件数は253件でしたので、対応率は約51パーセントでした。要望事項については、職員が現地確認を行い、緊急性・公共性・地元の優先順位・地域バランスなどを検討し、実施箇所を選定しています。町では、一つでも多くの要望に対応するという気持ちで取り組んでいます。が、生活道路については修繕が十分に行き届かず、ご迷惑をお掛けしている状況があることは承知しています。今後は、限られた予算で、どうしても高い事業効果が得られるか、事業規模が大きいものは国や県の支援により計画的な対応が可能か検討していきます。また、地域バランスや地元の優先順位についても今までの以上に配慮し、町民の皆さんの要望をしっかりと伺い、丁寧な対応に努めていきます。

発表者⑤ 建部哲久さん(章ヶ谷)
テーマ 活力・情報発信ほか

問 遠州森町PA周辺区域は、町が定めた3つの内陸フロントティア推進区域のうちの1つであり、平成26年3月にスマートICが整備されるなど、交通の利便性が向上し、今後の発展が期待されています。当推進区域では、これまで県道宮代赤根線の歩道整備や靱橋の架け替え事業を実施したほか、森町拠点防災倉庫の整備を行いました。さらに、今年度は小國神社の観光客の回遊対策として「遠州の小京都」をキーワードに、森町の歴史・文化などを紹介する簡易マップを作成予定です。このマップで、まずは森町を知ってもらう、興味をもってもらい、足を運んでもらうことにより、遠州森町PA、スマートICを活かした沿道施設の立地誘導へつなげていく契機となればと考えています。今後は町内企業の「ことまち横丁」での事業拡張や、県道掛川天竜線沿線への農産物直売所の計画も進んでい

答 遠州森町PA周辺区域は、町が定めた3つの内陸フロントティア推進区域のうちの1つであり、平成26年3月にスマートICが整備されるなど、交通の利便性が向上し、今後の発展が期待されています。当推進区域では、これまで県道宮代赤根線の歩道整備や靱橋の架け替え事業を実施したほか、森町拠点防災倉庫の整備を行いました。さらに、今年度は小國神社の観光客の回遊対策として「遠州の小京都」をキーワードに、森町の歴史・文化などを紹介する簡易マップを作成予定です。このマップで、まずは森町を知ってもらう、興味をもってもらい、足を運んでもらうことにより、遠州森町PA、スマートICを活かした沿道施設の立地誘導へつなげていく契機となればと考えています。今後は町内企業の「ことまち横丁」での事業拡張や、県道掛川天竜線沿線への農産物直売所の計画も進んでい



建部哲久さん



山本喜久次さん

答 総合計画は、あらゆる面において森町に関係する全ての人・団体・企業と行政が役割を分担し、協力しながらまちづくりに取り組む「協働」を大きな柱と考えています。その策定にあたっては、多くの皆様の意見を反映したものと なっています。また、昨年に引き続き開催している、この「町長と語る会」は、私が

問 森町の舵取り役として2年目を迎えられ、町民の声を耳を傾ける太田町長への期待は高まっている。あらためて太田町長の「まちづくり・人づくり」へのご決意を伺う。

答 今回策定した第9次森町の総合計画は、あらゆる面において森町に関係する全ての人・団体・企業と行政が役割を分担し、協力しながらまちづくりに取り組む「協働」を大きな柱と考えています。その策定にあたっては、多くの皆様の意見を反映したものと なっています。また、昨年に引き続き開催している、この「町長と語る会」は、私が

ます。特に、遠州森町PA周辺は、良好な茶畑や優良農地との調和に配慮しながら、交通アクセスの良さを活かした新たな交流を創出する魅力あるまちづくりを目指していきたいと考えています。

発表者⑥ 山本喜久次さん(中川)
テーマ 保健・医療・福祉ほか

その他 森地区 町政への意見箱(抜粋)

- 台風接近の際は、警報が出ていなくても同報無線や森町ちゃっとメールを活用し、注意喚起をすべき。
- 次郎柿で新規就農したい。町もブランド化の強化を！
- 町長と語る会は、事前に意見発表者を決めずに自由に発言したほうが良い。
- 町外で町のことを発信し影響力を発揮できる、大きな人間を育てる環境づくりをしてほしい。

が少なくなれば、検討の上、導入の可能性があるとのことです。町中運行に関しては、ニーズの問題や、バスが通れるかということ、また事故のリスクもあり、運行は難しいのではないかとのことでした。次に、町のトップとしての考えを申し上げます。私は、秋葉バスや町営バスも含め、バスは通院や通勤・通学、買い物など生活に不可欠な公共サービスと考えています。しかし、この公共サービスを支えていく財源には限りがあります。まずはどのような人にどのようなサービスが必要かを考え、持続可能で地域の実情にあった公共交通が提供できるように計画を策定していきたいと思っています。



園田地区の語る会のようす

園田地区 9月22日開催 園田総合センター 参加者86人

発表者① 鈴木利光さん(牛飼)
テーマ 安心・安全

問 町では、本年度ハザードマップの作成を進めているが、作成後の情報発信・伝達を町民に丁寧に行い、防災対策の充実に努めてほしい。

答 ハザードマップは、災害の種類毎に災害リスクを明示し、避難場所・避難経路などの位置を表示することで、自然災害による被害軽減を図ることを目的としていま

問 今年6月の「短時間豪雨」では、園田地区の各所で小菰川の水量が堤防を越える手前まで迫ってきた。近年のゲリラ豪雨をみると、従来の基準で河川整備を進めていくのか心配。住民が安心して暮らせる小菰川の整備を強く望む。

答 今回、森町が作成するハザードマップは、地震被害については、静岡県第4次被害想定をもとに震度分布や液状化の状況を示し、洪水被害については、太田川の洪水浸水想定区域図の情報、土砂災害については、土砂災害警戒区域等の情報を示した地図を作成します。また、ハザードマップを補足する冊子を併せて配布する予定です。ハザードマップに関する説明については、町の防災担当者による「出前講座」を計画していますので、ご希望があれば各町内会の社会教育推進員さんを通じて、お申込みください。

発表者② 本多克次さん(中川)
テーマ 自然環境



鈴木利光さん



本多克次さん

発表者③ 大場 栄さん(円田)
テーマ 安心・安全ほか

ご指摘のとおり、近年の降雨は、より局地的、集中的豪雨が増加しており、ハード対策だけでは限界があります。このため、水防法に基づく「浸水想定区域」の指定が進められています。これは、洪水時の迅速な避難を確保し、人的被害の軽減を図るためのソフト対策であり、洪水ハザードマップ作成が義務付けられています。町では、ハード対策及びソフト対策の両面から、水害対策を計画的に推進して、大切な命と財産を守るための取り組みを国や県と協調して進めていきます。

答 平成13年に策定された静岡県の河川整備計画に基づき、小菰川の改修が進められています。今後も、未改修区間の早期完了に向け、県に強く要望してまいります。

問 森町袋井インター通り線の全体概要について教えてください。地元では、この区間の道路改修(接道工事)をはじめ、橋梁・河川改修、排水対策、通学路整備などがどのように行われ、どう変わっていくのか、これまでの地域の課題が解消されるのかなど、多くの心配と期待を寄せている。



大場栄さん

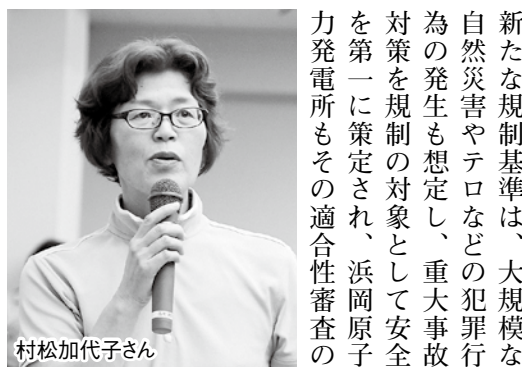
答 森町袋井インター通り線の全体概要ですが、本路線は、新東名森掛川インターを起点に、東名袋井インター、国道1号線を結び、袋井市新池地区(袋井のピアゴ付近)を終点とする、総延長14・1 kmの広域基幹道路です。平成28年3月に県事業として採択され、平成29年3月の都市計画決定の変更手続きを経て、本格的に事業に着手することになりました。森町管内で事業化された区間は、円田地内(なかよし広場東側)の掛川天竜線から分岐し、谷中駐在所までの約1・



飯田地区のみなさん

答 今年9月から配信を開始した、森町ちゃつとメールの情報発信が少ないとのご指摘に関しては、そのとおりだと認識しております。今一度、配信内容や頻度を調整し、町民の皆さんに特にお知らせしたい内容を順次配信していきます。また、森町の公式Twitter(ツイッター)やFacebook(フェイスブック)の開設については、現時点では予定しておりません。その理由は、SNSは世界に向けて情報提供できる一方で、町内にお住いのすべての住民に迅速かつ広く平等に情報伝達することに限界があるためです。まずは、同報無線を町民向けの第一の情報伝達手段として考え、それを補完する形で、災害情報も含め、森町

問 農業用地を宅地化して土地を確保し、建設業者などの民間事業者者に用地造成・建設を任せるなど有効活用してもらったかどうか。
答 農用地区域内の農地を農業以外に利用するには、農振法の規定に基づく除外手続きと、農地法に基づく転用許可を受けることが必要となります。さらに、開発行為を行う場合には、都市計画法の規定に基づく開発許可が必要となります。このように農用地の宅地化については、法律により厳格に制限が明文化されているために、すぐに宅地化することができない状況があります。ご提案いただいた「建設会社は土地の造成と建設を任せる」という手法は、森町の財政基盤を考慮すると有効手段の1つであると考えます。ただし、民間事



村松加代子さん

問 30km圏内に入っており、福島原発事故のような悲劇が起こってしまわないか。
答 エネルギー政策の一つとして原子力発電が行われてきましたが、福島原発の過酷事故を教訓に新たな原子力施設の規制基準が作られました。新たな規制基準は、大規模な自然災害やテロなどの犯罪行為の発生も想定し、重大事故対策を規制の対象として安全を第一に策定され、浜岡原子力発電所もその適合性審査の

問 時の流れで太田川の形が様変わりし、あちこちにあった湧水箇所も防災対策でふさがれてしまった。流れも清き太田川に戻す方策を考えているか。
答 二級河川を管理する静岡県では、国の「多自然川づくり基本指針」により、治水上の安全性を確保しつつ、生物の生育環境をできるだけ変えない川づくりを行っています。従来は護岸保護にコンクリートブロックが使われましたが、現在は生物が生息しやすい袋詰め玉石を使うといったことが行われています。太田川については、この方針

その他 飯田地区 町政への意見箱(抜粋)
●全国手話言語市区長会の準会員として、太田町長に入学してほしい。手話言語条例は全国的に広まっており、近隣でも、浜松市や掛川市などが制定している。障がい者が暮らしやすい町づくりを！



飯田地区であいさつする太田町長

直接町民の皆様のご意見を伺い、今後の「まちづくり・人づくり」に生かすために実施しているものです。皆様のご意見なしでは、いい「まちづくり・人づくり」はできないものと考えております。今後も対話を深めつつ、総意を集め、町民、事業者、行政、森町ファンで大きな人の輪をつくり、一丸となって目標の実現に向けて努力をしてまいりたいと思っております。

問 各町内会で、子どもの数が年々減少している。特に小学校低学年から幼稚園児の減少が顕著で危機的な状況。このままでは、子供会や町内会の活動に支障をきたす恐れがある。
答 平成28年度の1年間に於ける森町の出生数は111人で27年度の116人から5人減となりました。町では人口減少を緩やかにするため「森町人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少対策として、4つの将来の方向性を定めています。1つ目が結婚・出産・子育て、2つ目が町内定住、3つ目が地域経済の活性化、4つ目が生活環境の整備です。結婚・出産・子育て施策では、今年度から、認可外保育料の助成や、保育士不足を解消するため「保育士宿舎借り上げ支援事業」を始めました。また、多子世帯への経済的負担を軽減するように、森つ子出産祝い金を今年10月からリニューアルしま



した。家庭の状況は年々変わりますので、その時代の家庭の状況に合わせた支援の検討と実施を引き続き行っていきたいと考えています。

問 森町ちゃつとメールの情報発信が、試験期間中に比べて少ない。発信する内容はたくさんあると思うので、もっと活用したかどうか？また、TwitterやFacebookの森町公式アカウントを作り、災害時の情報発信などに役立ててほしい。
答 森町ちゃつとメールの情報は、試験期間中に比べて少ない。発信する内容はたくさんあると思うので、もっと活用したかどうか？また、TwitterやFacebookの森町公式アカウントを作り、災害時の情報発信などに役立ててほしい。

問 森町ちゃつとメールの情報発信が、試験期間中に比べて少ない。発信する内容はたくさんあると思うので、もっと活用したかどうか？また、TwitterやFacebookの森町公式アカウントを作り、災害時の情報発信などに役立ててほしい。
答 森町ちゃつとメールの情報は、試験期間中に比べて少ない。発信する内容はたくさんあると思うので、もっと活用したかどうか？また、TwitterやFacebookの森町公式アカウントを作り、災害時の情報発信などに役立ててほしい。